

Press Release



2016年2月10日

日本イーライリリー株式会社

〒651-0086
神戸市中央区磯上通 7-1-5
www.lilly.co.jp

EL16-04

本プレスリリースは、米国イーライリリー社が1月28日(米国現地時間)に発表したプレスリリースを日本語に翻訳したものです。内容および解釈について英文オリジナルが優先されます。<http://www.lilly.com>をご参照ください。

米国イーライリリー社、2015年第4四半期および通年の業績を報告

- 2015年第4四半期の売上は5%増。ノバルティス社の動物用医薬品事業が計上されたことに加え、トルシシティやサイラムザなどの複数の製品の販売数量拡大が貢献。また、商業化権の移管に伴いアービタックスも寄与。ただし、こうした増収要因は外国為替変動の悪影響で一部相殺。
- 2015年第4四半期の1株当たり利益(EPS)は、報告値が0.45ドル、非GAAP値が0.78ドル。
- 2015年通年の売上は2%増の200億ドル(報告値)。
- 2015年通年のEPSは、報告値が2.26ドル、非GAAP値が3.43ドル。
- 配当と自社株買いを通じて、2015年には約29億ドルの現金を株主に還元。
- 2016年通年のEPSは、報告値を2.83~2.93ドルの範囲に修正、非GAAP値は3.45~3.55ドルを再確認。

イーライリリー・アンド・カンパニー(NYSE: LLY、本社: 米インディアナ州インディアナポリス、以下イーライリリー社)は米国時間1月28日、2015年第4四半期および通年の業績を発表しました。

単位百万ドル(1株あたりの 数値を除く)	第4四半期			通年		
	2015	2014	% 成長率	2015	2014	% 成長率
売上 - 報告値	\$ 5,375.6	\$ 5,121.3	5%	\$ 19,958.7	\$ 19,615.6	2%
純利益 - 報告値	478.4	428.5	12%	2,408.4	2,390.5	1%
EPS - 報告値	0.45	0.40	13%	2.26	2.23	1%
売上 - 非 GAAP 値	5,375.6	5,399.6	(0)%	19,958.7	20,696.7	(4)%
純利益 - 非 GAAP 値	828.2	880.5	(6)%	3,656.3	3,257.6	12%
EPS - 非 GAAP 値	0.78	0.82	(5)%	3.43	3.03	13%

2015 年度と 2014 年度の業績は報告値および非 GAAP 値の両方で示されています。本プレスリリースに含まれる数値は四捨五入のため合計が一致しない場合があります。報告値は一般会計原則(GAAP)に則って作成され、当該期間に計上した全ての売上および費用を含んでいます。非 GAAP 業績は、後述の調整表にある特定項目を除外しています。2014 年の非 GAAP 値には、ノバルティス社の動物用医薬品事業の買収とそのための資金調達が 2014 年 1 月 1 日に実施されたものとして、同事業の業績が含まれています。全ての期間について、表示されている非 GAAP 値の業績には、第三者から取得した市販品または導入品の費用に伴う無形固定資産の償却も含まれていません。イーライリリー社の 2016 年度の業績予想も報告値と非 GAAP 値の両方で説明されています。この非 GAAP 値は、会社の業績の潜在的傾向への追加的な洞察を提供する為のものです。

イーライリリー社の会長、社長兼最高経営責任者(CEO)のジョン・レックライター博士(John C. Lechleiter, Ph.D.)は次のように述べています。「当社の 2015 年度の業績は将来への確信を深めてくれるものとなりました。その確信は、6 件の FDA の承認、複数の第 III 相臨床試験データの肯定的なリードアウト、そしてサイラムザ、トルリシティ、ジャディアンス、Basaglar など新しく上市した製品の順調な実績に支えられています。2016 年も、売上の成長、マージンの拡大、株主への価値の創出を継続しながら、人々の生活を改善するために当社の開発パイプラインから革新的な医薬品を提供し続ける所存です」。

過去 3 カ月の主要な出来事

事業活動

- 当社は、ゲムシタピンとシスプラチンとの併用療法で、転移性扁平上皮非小細胞肺癌(NSCLC)患者の一次治療に用いる初めての生物学的製剤として、necitumumab (米国での製品名:PortrazzaTM) を米国で上市しました。

薬事関連

- 米国食品医薬品局(FDA)は necitumumab (米国での製品名:Portrazza)を製造承認しました。
- FDA は、Basaglar[®] 100 単位/mL を承認しました。Basaglar は、別の U-100 インスリンラギン製剤であるランタス[®]と同じアミノ酸配列を有する持効型溶解インスリンアナログ製剤です。当社とサノフィ社との和解合意に従い、Basaglar は 2016 年 12 月 15 日以降、米国で発売できることになっています。Basaglar は、ベーリンガーインゲルハイム社と当社の糖尿病領域における提携の一部です。
- 欧州委員会はヒト用医薬品委員会(CHMP)の肯定的な見解を受けて、以下について承認しました:
 - プラチナ製剤を含む化学療法後に増悪した局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者に対する、ドセタキセルとの併用療法でラムシルマブ(サイラムザ[®])を承認。

- ベバシズマブ、オキサリプラチン、フルオロピリミジン併用による一次療法中または施行後に増悪した転移性結腸・直腸癌患者に対する FOLFIRI(イリノテカン、フォリン酸および 5-フルオロウラシル)との併用療法としてラムシルマブ(サイラムザ)を承認。
- 当社とインサイト・コーポレーションは、中等度から重度疾患活動性関節リウマチ患者の治療薬として、1日1回経口投与の baricitinib の新薬承認申請を FDA に行ったことを発表しました。baricitinib は、欧州医薬品庁に対しても、中等度から重度疾患活動性関節リウマチ患者の治療薬として新薬承認申請が行われています。
- ベーリンガーインゲルハイム社と当社の糖尿病領域における提携の現状は以下の通りです：
 - FDA は、心血管イベントの発症リスクが高い成人の 2 型糖尿病患者を対象とした、ジャディアンス®(一般名：エンパグリフロジン)の長期の臨床試験研究の心血管アウトカムのデータ申請を受理しました。当該データは欧州の規制当局にも申請されています。ジャディアンスは、心血管アウトカムに特化した試験において、心血管イベントのリスクと心血管死の両方において有意な減少を達成した唯一の糖尿病治療薬です。
 - エンパグリフロジンとリナグリプチンを含有する多剤配合錠が欧州当局に承認申請されました。
- 当社は、局所進行性又は転移性で上皮成長因子受容体(EGFR)発現がみられる扁平上皮性非小細胞肺癌を有し、化学療法を受けていない患者に対して、ゲムシタビンとシスプラチンとの併用療法で、necituzumab (Portrazza) の承認を推奨する欧州 CHMP からの承認勧告を得ました。

臨床

- 当社は、1 型および 2 型糖尿病の治療薬候補 basal insulin peglispro の開発を中止しました。
- 当社は、イクセキズマブを 24 週間投与された関節症性乾癬(PsA)患者において、PsA の関節症状がプラセボと比べ有意に改善したことを発表しました。同時に、X 線スコアで評価した関節の構造的損傷の進展が有意に抑制されることが認められ、身体機能障害の改善および局面型皮疹を有する乾癬の皮膚症状の改善も認められたことを発表しました。

事業開発・その他

- 当社および、Merck & Co., Inc., Kenilworth, N.J., U.S.A.は、以下についての現行の提携を拡大することを発表しました。
 - 非扁平上皮非小細胞肺癌(NSCLC)の一次治療のための第 III 相臨床試験において、当社のアリムタ®(一般名：ペムトレキセド注射用)と、Merck 社の KEYTRUDA®(一般名：ペムブロリズマブ)の併用療法の安全性および有効性を評価
 - 複数のがん種の第 I 相試験において、当社のサイクリン依存性キナーゼ(CDK)4 および 6 阻害剤の abemaciclib と、Merck 社の KEYTRUDA®(ペムブロリズマブ)を評価

- 当社は、ロシュ・ダイアグノスティックス社が現在開発中の、脳脊髄液のアミロイドβ 1-42 に関する商業的に可能な測定・分析について、同社と契約したことを発表しました。
- 当社は、インディアナ州インディアナポリスにあるグローバル研究開発本部を拡張する計画を発表しました。当社の開発関連施設に 7,000 万ドルを投じて新たに建設される建物の特徴は、複数の R&D 関連部門間での連携を促進する幾多の専門分野にわたる研究所であることです。
- 当社は、アイルランドのスライゴにある動物用医薬品の製造施設を閉鎖することを発表しました。この閉鎖に伴い、当社は 2016 年第 1 四半期に約 1 億ドル(税引前)または 1 株当たり約 0.09 ドル(税引後)の費用を計上する見込みです。
- 当社は、2016 年第 1 四半期に発行済み普通株式に対する 1 株当たり 0.51 ドルの配当(2%増)を行うことを発表しました。現在の年間の配当予定額は、1 株当たり 2.04 ドルです。
- 以前発表した自社株買いプログラムの一環として、当社は 2015 年第 4 四半期に当社株約 2 億 5,000 万ドルを買い戻しました。2015 年通年では、当社は配当と自社株買いプログラムを通じて、株主に現金約 29 億ドルを還元しました。

2015 年第 4 四半期の業績(報告値)

2015 年第 4 四半期の世界全体での総売上は 53 億 7,600 万ドルで、前年同期比 5%増でした。増収の内訳は、販売数量の増加 7%と販売価格の上昇 3%で、外国為替レートの不利な変動による影響(6%)により一部相殺されました。販売数量の増加は主に、ノバルティス社の動物用医薬品事業を計上したこと、トルリシティ、サイラムザなどの複数の製品の販売数量が増加したこと、ならびにアービタックスの北米での商業化権が移管されたためです。こうした世界での販売数量の増加は、サインバルタ®の特許期間満了の影響が依然として残っているため一部相殺されました。米国での総売上は、販売価格の上昇、ノバルティス社の動物用医薬品事業の計上、および複数の医薬品の販売数量増加により、前年同期比 15%増の 28 億 2,100 万ドルとなりました。米国外での総売上は、前年同期比 4%減少して 25 億 5,500 万ドルとなりました。ノバルティス社の動物用医薬品事業の売上計上と複数の医薬品の販売数量の拡大がありましたが、外国為替レートの不利な変動と 2014 年の欧州でのサインバルタの特許期間満了が影響しました。

2015 年第 4 四半期のグロスマージンは、前年同期比 3%増の 39 億 8,600 万ドルとなりました。売上に対するグロスマージンの割合は前年同期から 1.3 パーcentageポイント減少して 74.2%でした。グロスマージン比率の低下は、主にノバルティス社の動物用医薬品事業の計上と、北米でのアービタックスの商業化権の移管が原因です。ただし、一部は当社の糖尿病薬製造における技術的課題の改善による生産性向上、他の製造プロセスの効率化、米国での販売価格上昇により吸収されました。

2015年第4四半期の総事業費(研究開発、マーケティング、販売および一般管理費の合計)は、前年同期比9%増の32億4,300万ドルとなりました。研究開発費は、前年同期比22%増の14億4,400万ドルで、総売上に対する比率は26.9%となりました。これは主に、evacetrapibとbasal insulin peglisproの開発プログラム終了に伴う費用約1億3,500万ドル、および後期段階の臨床開発費用の増加が原因です。マーケティング、販売および一般管理費は、前年同期比横ばいの17億9,800万ドルとなりました。これは外国為替変動の有利な影響と訴訟費用の減少があったものの、新製品の上市に関する費用とノバルティス社の動物用医薬品事業が加わったことで相殺されたためです。

2015年第4四半期に、当社は取得済仕掛研究開発費合計1億9,900万ドルを計上しました。この費用は主に、Locemia Solutions社から経鼻グルカゴン製剤の全世界での権利を取得したことに伴います。2014年第4四半期に、当社は取得済仕掛研究開発費用1億520万ドルを計上していました。当該費用の内訳は、当社とベーリンガーインゲルハイム社との契約の変更に伴う費用5,520万ドル、およびBioChaperone Lisproとして知られる超速効型インスリンの開発に特化したアドシア社との提携に関する5,000万ドルです。

2015年第4四半期に、当社は1億4,490万ドルの資産価値減損、組織再編およびその他の特別費用を計上しました。当該費用の内訳は、退職金、ノバルティス社の動物用医薬品事業の取得に関する統合費用、および資産減損です。前年同期には、当社は4億100万ドルの資産価値減損、組織再編およびその他の特別費用を計上していました。その内訳は、主としてプエルトリコの製造施設の閉鎖に伴う資産減損、当社のコスト構造とグローバルな人員削減のために進行中のコスト抑制策に関する退職金、当時保留中だったノバルティス社の動物用医薬品事業の買収に関する費用です。

2015年第4四半期の事業利益は前年同期比6%増の3億9,990万ドルでした。これは、資産価値減損、組織再編およびその他の特別費用が減少して、グロスマージンが増加したものの、事業費と取得済仕掛研究開発費用の増加により大部分が相殺されたためです。

2015年第4四半期のその他の収入(費用)は4,470万ドルの収入超過で、前年同期は1億3,720万ドルの収入超過でした。前年同期のその他の収入は、主に当社とベーリンガーインゲルハイム社との契約の変更に伴うその他の収入9,200万ドル、および投資純利益に起因します。

2015年第4四半期の実効税率は7.6%の恩恵を受けました。前年同期の税率は16.6%でした前年同期および当四半期の実効税率には、各期末時点で米国での特定の税金費用に関わる条項(研究開発費用への税優遇措置を含め)の通年度での恩恵が含まれます。2015年の実効税率には、取得済仕掛研究開発費用、資産価値減損、組織再編およびその他の特別費用による税制面での恩恵、ならびに個別の税制優遇による純額で1,700万ドルの恩恵が含まれます。2015年第4四半期の純利益は12%増加して4億7,840万ドル、1株当たり利益は13%増加して0.45ドルとなり、これに対して前年同期はそれぞれ4億2,850万ドルと0.40ドルでした。純利益と1株当たり利益の増加は、実効税率が低下し、事業利益が増加したためで、一部はその他の収入の減少で相殺されました。

2015年第4四半期の業績(非GAAP値)

2015年第4四半期の非GAAP値での世界全体での総売上は53億7,600万ドルで、前年同期比横ばいでした。外国為替レートの不利な変動による減収(6%)は、販売価格の上昇による増収(3%)と販売数量の増加(2%)によりほぼ吸収されました。米国での総売上は、販売価格の上昇と販売数量の増加が奏功して、12%増の28億2,100万ドルとなりました。米国外での総売上は、11%減少して25億5,500万ドルとなりました。複数の医薬品の販売数量の拡大がありましたが、外国為替レートの不利な変動と2014年の欧州でのサインバルタの特許期間満了が影響しました。

2015年第4四半期のグロスマージンは、前年同期比1%増の41億5,300万ドルとなりました。売上に対するグロスマージンの割合は前年同期から1.0パーセンテージポイント上昇して77.3%でした。グロスマージン比率の上昇は、当社の糖尿病薬製造における技術的課題の改善による生産性向上、他の製造プロセスの効率化、米国での販売価格の上昇に起因します。

2015年第4四半期の事業費は、前年同期比5%増の32億4,100万ドルとなりました。研究開発費は、前年同期比19%増の14億4,400万ドルで、総売上に対する比率は26.9%となりました。これは主に、evacetrapibとbasal insulin peglisproの開発プログラムの終了に伴う費用約1億3,500万ドル、および後期段階の臨床開発費用の増加が原因です。マーケティング、販売および一般管理費は、前年同期比3%減の17億9,700万ドルとなりました。これは新製品の上市に関する費用で一部相殺されたものの、外国為替変動の有利な影響と訴訟費用の減少が貢献したためです。

2015年第4四半期の事業利益は前年同期比12%減の9億1,280万ドルでした。これは、グロスマージンが上昇したものの、研究開発費用が増加したことが原因です。

2015年第4四半期のその他の収入(費用)は4,470万ドルの収入超過で、前年同期は1,190万ドルの収入超過でした。

2015年第4四半期の実効税率は、前年同期比2.9パーセンテージポイント低下して、13.5%となりました。前年同期および当四半期の実効税率には、各期末時点で米国での特定の税金費用に関わる条項(研究開発費用への税優遇措置を含め)の通年度での恩恵が含まれます。2015年第4四半期の実効税率には、個別の税制優遇による純額で1,700万ドルの恩恵が含まれています。

2015年第4四半期の純利益は6%減少して8億2,820万ドル、1株当たり利益は5%減少して0.78ドルとなり、これに対して前年同期はそれぞれ8億8,050万ドルと0.82ドルでした。純利益と1株当たり利益の減少は、主に evacetrapib と basal insulin peglispro の開発プログラム終了に伴うコストにより、事業利益が減少したことが要因です。

非 GAAP 値の詳細については以下の調整表と、本プレスリリース中の後述の GAAP 報告値と一部の非 GAAP 調整後値の対比表をご覧ください。

	第4四半期			対前年比(%)
	2015	2014		
1株当たり利益(報告値)	\$ 0.45	\$ 0.40		13%
ノバルティス社の動物用医薬品事業の2014年度の業績	—	(.01)		
無形固定資産の償却	.11	.08		
取得済仕掛研究開発費	.12	.06		
資産価値減損、組織再編およびその他の特別費用	.10	.34		
当社とベーリンガーインゲルハイム社との契約の変更に伴う収入	—	(.06)		
1株当たり利益(非 GAAP 値)	\$ 0.78	\$ 0.82		(5)%
四捨五入のため合計値は一致しない。				

2015 年通年の業績(報告値)

2015 年通年の世界全体での総売上は 199 億 5,900 万ドルで、前年比 2%増でした。増収の内訳は、販売数量の増加 8%と販売価格の上昇 1%で、外国為替変動の悪影響(7%)により一部相殺されました。販売数量の増加は主に、ノバルティス社の動物用医薬品事業が加わったこと、サイラムザ、トルリシティ、ヒューマログなどの複数の医薬品の販売数量が増加したこと、ならびに北米でのアービタックスの商業化権の移管によるものです。こうした世界での販売数量の増加は、依然として残るサインバルタとエビスタ®の特許期間満了の影響により一部相殺されました。米国での総売上は、前年比 11%増の 100 億 9,700 万ドルとなりました。この増収は、販売価格の上昇、ノバルティス社の動物用医薬品事業の計上、複数の医薬品の販売数量増加が寄与したのですが、依然として残るサインバルタとエビスタの特許期間満了の影響により一部相殺されました。米国外での総売上は、前年比 6%減少して 98 億 6,100 万ドルとなりました。ノバルティス社の動物用医薬品事業の収益が加わったことと複数の医薬品の販売数量の拡大がありましたが、外国為替変動の悪影響を受けました。

2015 年のグロスマージンは、前年比 2%増の 149 億 2,200 万ドルとなりました。売上に対するグロスマージンの割合は前年とほぼ横ばいの 74.8%でした。これは主に、ノバルティス社の動物用医薬品事業が加わったことと、棚卸資産のステップアップ費用や償却費などの悪影響を、海外での在庫販売に関する外国為替レートの好影響で吸収したためです。

2015 年の総事業費は、前年比横ばいとなりました。研究開発費は、前年比 1%増の 47 億 9,600 万ドルで、総売上に対する比率は 24.0%となりました。この増加は主に、後期段階の臨床開発費用の増加、ノバルティス社の動物用医薬品事業の計上、後期開発段階の新薬候補の開発中止に伴う費用の増加が原因で、一部は外国為替変動の好影響により相殺されました。マーケティング、販売および一般管理費は、前年比 1%減の 65 億 3,300 万ドルとなりました。これは外国為替変動の好影響や 2014 年に計上していたブランド処方薬手数料がなくなったものの、ノバルティス社の動物用医薬品事業の計上と、新製品の上市に関する費用で相殺されたためです。

2015 年に、当社は取得済仕掛研究開発費合計 5 億 3,500 万ドルを計上しました。この費用の主な内訳は以下の通りです：

- FDA による、tanezumab の第 III 相臨床試験の再開を承認決定に伴うファイザー社への支払い 2 億ドル
- Locemia Solutions 社からの経鼻グルカゴン製剤の全世界での権利取得に伴う支払い 1 億 4,900 万ドル
- がんの治療薬候補開発のための提携に伴うイノVENT社への支払い 5,600 万ドル
- 自己免疫疾患と他の疾病の治療薬である Hanmi Pharmaceutical 社の経口ブルトン型チロシンキナーゼ(BTK)阻害剤に関する独占ライセンス提携契約に関する支払い 5,000 万ドル

- 革新的ながんの免疫学的療法を発見するための研究提携に関する BioNTech AG 社への支払い 3,000 万ドル
- その他の技術提携に関して、5,000 万ドル

2014 年に、当社は取得済仕掛研究開発費用 2 億 20 万ドルを計上しました。当該費用の内訳は以下の通りです。

- 当社とベーリンガーインゲルハイム社との契約の変更に伴う費用 5,520 万ドル
- アドシア社との提携に関する 5,000 万ドル
- アストラゼネカ社との AZD3293[アルツハイマー型認知症治療薬として開発中の経口 β セクレターゼ切断酵素(BACE)阻害薬]の共同開発・商業化に関する契約 5,000 万ドル
- イミュノコア社との提携契約(T 細胞を基盤とする新規がん治療の研究および将来的な開発)に関する 4,500 万ドル

2015 年に、当社は 3 億 6,770 万ドルの資産価値減損、組織再編およびその他の特別費用を計上しました。当該費用の内訳は、退職金、ノバルティス社の動物用医薬品事業の統合費用、および資産減損です。2014 年に、当社は 4 億 6,870 万ドルの資産価値減損、組織再編およびその他の特別費用を計上していました。その内訳は、当社のコスト構造とグローバルな人員削減のために進行中のコスト抑制策に関わる退職費用、主としてプエルトリコの製造施設の閉鎖に伴う資産減損、当時保留中だったノバルティス社の動物用医薬品事業の買収に関する費用です。

2015 年の事業利益は前年比 1%増の 26 億 8,900 万ドルでした。これは、グロスマージンの増加と資産価値減損、組織再編およびその他の特別費用の減少があったものの、取得済仕掛研究開発費用の増加により大部分が相殺されたためです。

2015 年のその他の収入(費用)は 1 億 60 万ドルの収入超過で、前年は 3 億 4,050 万ドルの収入超過でした。2015 年のその他の収入には、投資純利益 2 億 3,670 万ドルが含まれますが、負債 16 億 5,000 万ドルの買戻しに関して 1 億 5,270 万ドルの純手数料を支払ったために一部相殺されました。前年のその他の収入には、投資純利益 2 億 1,640 万ドル、および当社とベーリンガーインゲルハイム社との契約の変更に伴うその他の収入 9,200 万ドルが含まれます。

2015 年の実効税率は 13.7%(2014 年は 20.3%)となりました。2014 年の実効税率は、米国のブランド処方薬手数料に伴う控除対象外の費用 1 億 1,900 万ドルの影響を反映しています。今期の実効税率の低下は主に、負債の買戻しに関する純手数料、取得済仕掛研究開発費用、資産価値減損、組織再編およびその他の特別費用による税金面でのプラスの影響が原因です。

2015 年通年の純利益は 1%増加して 24 億 800 万ドル、1 株当たり利益は 1%増加して 2.26ドルとなり、これに対して前年はそれぞれ 23 億 9,000 万ドルと 2.23ドルでした。純利益と 1 株当たり利益の増加は、所得税の低下と事業利益の増加によるもので、大部分はその他の収入の低下で相殺されました。

2015 年通年の業績(非 GAAP 値)

2015 年通年の事業利益は、グロスマージンの低下が一部影響しましたが、事業費の減少が奏功して、10%増加の 43 億 7,100 万ドルとなりました。2015 年の実効税率は 20.9%(2014 年は 20.6%)でした。純利益は 12%増加して 36 億 5,600 万ドル、1 株当たり利益は 13%増加して 3.43ドルとなりました。

非 GAAP 値の詳細については以下の調整表と、本プレスリリース中の後述の GAAP 報告値と一部の非 GAAP 調整後値の対比表をご覧ください。

	<u>通年</u>		<u>対前年比(%)</u>
	<u>2015</u>	<u>2014</u>	
1 株当たり利益(報告値)	\$ 2.26	\$ 2.23	1%
ノバルティス社の動物用医薬品事業の 2014 年度の業績	—	(.07)	
ノバルティス社の動物用医薬品事業の棚卸資産のステップアップ費用	.10	—	
無形固定資産の償却	.39	.32	
米国ブランド処方薬手数料	—	.11	
取得済仕掛研究開発費	.33	.12	
資産価値減損、組織再編およびその他の特別費用	.25	.38	
負債の買戻しに関する純手数料	.09	—	
当社とベーリンガーインゲルハイム社との契約の変更に伴う収入	—	(.06)	
1 株当たり利益(非 GAAP 値)	\$ 3.43	\$ 3.03	13%
四捨五入のため合計値は一致しない。			

売上高ハイライト

(単位:百万ドル)	第4四半期			通年		
	2015	2014	対前年同期比%	2015	2014	対前年比%
ヒューマログ [®]	\$ 798.7	\$ 729.1	10%	\$ 2,841.9	\$ 2,785.2	2%
アリムタ	627.2	725.0	(13)%	2,493.1	2,792.0	(11)%
シアリス [®]	638.4	622.4	3%	2,310.7	2,291.0	1%
フォルテオ [®]	377.9	380.8	(1)%	1,348.3	1,322.0	2%
ヒューマリン [®]	358.6	395.6	(9)%	1,307.4	1,400.1	(7)%
サインバルタ	223.6	367.3	(39)%	1,027.6	1,614.7	(36)%
ジプレキサ [®]	229.1	253.1	(9)%	940.3	1,037.3	(9)%
ストラテラ [®]	221.6	194.9	14%	784.0	738.5	6%
エフィエント [®]	140.3	137.8	2%	523.0	522.2	0%
アービタックス [®]	176.2	96.0	83%	485.0	373.3	30%
サイラムザ	117.5	33.6	NM	383.8	75.6	NM
トラゼンタ ^{®(a)}	101.7	82.7	23%	356.8	328.8	9%
トルリシティ	112.5	10.2	NM	248.7	10.2	NM
エビスタ	52.8	72.1	(27)%	237.3	419.8	(43)%
動物用医薬品	811.7	633.3	28%	3,181.0	2,346.6	36%
総売上	\$ 5,375.6	\$ 5,121.3	5%	\$ 19,958.7	\$ 19,615.6	2%

(a)トラゼンタの売上高には Jentaduetto[®]が含まれる。
 NM: 比較不能

「ヒューマログ」

2015年第4四半期における世界全体での「ヒューマログ」の売上は、前年同期比10%増の7億9,870万ドルでした。米国における売上は、主に実勢価格の上昇と、それより程度は少ないものの販売数量の増加により、20%増の5億1,100万ドルでした。米国外での売上は6%減の2億8,770万ドルとなりました。販売数量増により一部相殺されたものの、外国為替変動の不利な影響を受けました。

2015年通年の世界全体での「ヒューマログ」の売上は、前年比2%増の28億4,200万ドルでした。米国における売上は、主に販売価格の上昇と、程度は少ないものの販売数量も増加したため、9%増の17億7,200万ドルでした。米国外での売上は8%減の10億7,000万ドルとなりました。販売数量増により一部相殺されたものの、外国為替変動の不利な影響を受けました。

「アリムタ」

2015年第4四半期における世界全体での「アリムタ」の売上は、前年同期比13%減の6億2,720万ドルでした。アリムタの米国での売上は、需要の減少と、程度は少ないものの実勢価格の低下もあり、17%減の2億8,300万ドルとなりました。米国外での売上は、外国為替変動の悪影響と、程度は少ないものの実勢価格の下落により、10%減の3億4,420万ドルとなりました。ただし、販売数量の増加により一部は相殺されました。

2015年通年の世界全体での「アリムタ」の売上は、前年比11%減の24億9,300万ドルでした。アリムタの米国での売上は、需要の減少と、程度は少ないものの実勢価格の低下もあり、5%減の11億6,200万ドルとなりました。米国外での売上は、外国為替変動の悪影響と、程度は少ないものの実勢価格も低下したため、15%減の13億3,100万ドルとなりました。ただし、販売数量の増加により、一部は相殺されました。

「シアリス」

2015年第4四半期の「シアリス」の世界全体での売上は前年同期比3%増の6億3,840万ドルでした。米国での売上は、実勢価格の上昇が奏功して22%増の3億8,700万ドルとなりました。米国外のシアリスの売上は17%減の2億5,140万ドルとなりました。実勢価格は上昇しましたが、外国為替変動の悪影響と販売数量の減少に起因するものです。

2015年通年の「シアリス」の世界全体での売上は前年比1%増の23億1,100万ドルでした。米国での売上は、実勢価格の上昇が奏功して21%増の12億5,700万ドルとなりました。米国外のシアリスの売上は、外国為替変動の不利な影響により、16%減の10億5,400万ドルとなりました。

「フォルテオ」

2015年第4四半期における世界全体での「フォルテオ」の売上は、前年同期比1%減の3億7,790万ドルとなりました。米国での売上は、実勢価格の上昇が販売数量の減少をほぼ吸収したために、2%増の1億8,580万ドルとなりました。米国外での売上は3%減の1億9,210万ドルとなりました。販売数量の増加が大部分を吸収したものの、外国為替変動の悪影響を受けました。

2015年通年の世界全体での「フォルテオ」の売上は、前年比2%増の13億4,800万ドルとなりました。米国での売上は、販売数量の減少が一部影響したものの、実勢価格の上昇が奏功して、14%増の6億1,240万ドルとなりました。米国外での売上は6%減の7億3,590万ドルとなりました。販売数量の増加により一部相殺されたものの、外国為替変動の悪影響を受けました。

「ヒューマリン」

2015年第4四半期における世界全体での「ヒューマリン」の売上は、前年同期比9%減の3億5,860万ドルでした。米国での売上はほぼ横ばいの2億1,120万ドルとなりました。米国外での売上は、主にブラジルで政府との契約が満了したことによる販売数量の減少と外国為替変動の悪影響を受け、20%減の1億4,740万ドルとなりました。

2015年通年の世界全体での「ヒューマリン」の売上は、前年比7%減の13億700万ドルでした。米国での売上は7%増の7億6,640万ドルとなりました。実勢価格の上昇と、程度は少ないものの卸売業者の購入パターンが奏功しました。ただし需要の減少で一部相殺されました。米国外での売上は、主にブラジルで政府との契約が満了したことによる販売数量の減少と外国為替変動の悪影響を受け、21%減の5億4,300万ドルとなりました。

「サインバルタ」

2015年第4四半期における世界全体での「サインバルタ」の売上は、前年同期比39%減の2億2,360万ドルでした。米国外での売上は、35%減の1億9,850万ドルでした。この減少は主に、2014年にヨーロッパで特許期間が満了したことと外国為替の不利な変動に起因します。

2015年通年の世界全体での「サインバルタ」の売上は、前年比36%減の10億2,800万ドルでした。米国外での売上は、26%減の8億8,300万ドルでした。この減少は主に、外国為替の不利な変動と2014年にヨーロッパで特許期間が満了したことにより起因します。

「ジプレキサ」

2015年第4四半期における世界全体での「ジプレキサ」の売上は、前年同期比9%減の2億2,910万ドルとなりました。米国外での売上は、主に外国為替変動の悪影響を受けたため、7%減の2億340万ドルとなりました。

2015年通年の世界全体での「ジプレキサ」の売上は、前年比9%減の9億4,030万ドルとなりました。米国外での売上は、主に外国為替変動の悪影響を受けたため、15%減の7億8,360万ドルとなりました。

「ストラテラ」

2015年第4四半期の世界全体での「ストラテラ」の売上は、前年同期比14%増の2億2,160万ドルでした。米国での売上は21%増の1億4,370万ドルで、実勢価格の上昇が奏功しました。米国外での売上は3%増の7,790万ドルとなりました。販売数量が増加しましたが、外国為替変動の悪影響により大部分が相殺されました。

2015年通年の世界全体での「ストラテラ」の売上は、前年比6%増の7億8,400万ドルでした。米国での売上は11%増の5億210万ドルで、実勢価格の上昇と、程度は少ないものの需要の増加が奏功しました。米国外での売上は1%減の2億8,190万ドルとなりました。外国為替変動の悪影響を、販売数量の増加がほぼ吸収しました。

「エフィエント」

2015年第4四半期の「エフィエント」の売上は、前年同期比2%増の1億4,030万ドルでした。米国での売上は、需要減少により一部相殺されましたが、実勢価格の上昇が寄与して、7%増の1億1,460万ドルでした。米国外での売上は、外国為替変動の悪影響と実勢価格の低下により17%減の2,570万ドルでした。

2015年通年の「エフィエント」の世界全体での売上は、前年比横ばいの5億2,300万ドルでした。米国での売上は、需要減少により一部相殺されましたが、実勢価格の上昇が寄与して、6%増の4億1,760万ドルでした。米国外での売上は、外国為替変動の悪影響により17%減の1億540万ドルでした。

「エビスタ」

2015年第4四半期における世界全体での「エビスタ」の売上は、前年同期比27%減の5,280万ドルでした。米国外での売上は、主に外国為替変動の悪影響により、16%減の4,440万ドルでした。

2015年通年の世界全体での「エビスタ」の売上は、前年比43%減の2億3,730万ドルでした。米国での売上は、2014年3月の特許期間満了により、70%減の6,170万ドルでした。米国外での売上は、主に外国為替変動の悪影響により、17%減の1億7,560万となりました。

動物用医薬品

2015年第4四半期における世界全体での動物用医薬品の売上は、前年同期比28%増の8億1,170万ドルとなりました。米国での動物用医薬品の売上は19%増加して3億8,180万ドルとなり、米国外での売上は38%増加して4億2,990万ドルとなりました。この増加は主に、ノバルティス社の動物用医薬品事業の売上計上によるものです。

2014年のノバルティス社の動物用医薬品事業の売上を含めると、2015年第4四半期における世界全体での動物用医薬品の売上は前年同期比11%減、米国での売上は2%減、米国外での売上は18%減となります。米国での動物用医薬品の売上減少の要因は、実勢価格の低下と食用動物向け製品の販売数量の減少です。ただしこれは、コンパニオンアニマル向け製品の販売数量の増加により一部相殺されました。米国外での売上は、外国為替の不利な変動と販売数量の減少による影響を受けました。2014年のノバルティス社の動物用医薬品事業の売上を含め、外国為替変動の悪影響を除くと、世界全体での動物用医薬品の売上は前年同期比5%減となります。

2015 年通年の世界全体での動物用医薬品の売上は、前年比 36%増の 31 億 8,100 万ドルとなりました。米国での動物用医薬品の売上は 21%増加して 15 億 4,100 万ドルとなり、米国外での売上は 53%増加して 16 億 4,000 万ドルとなりました。この増加は、ノバルティス社の動物用医薬品事業の売上計上によるものです。

2014 年のノバルティス社の動物用医薬品事業の売上を含めると、2015 年通年の世界全体での動物用医薬品の売上は前年比 7%減、米国での売上は 1%減、米国外での売上は 13%減となります。米国での動物用医薬品の売上減少の要因は、主として食用動物向け製品の販売数量の減少です。米国外での売上は、外国為替変動の悪影響とコンパニオンアニマル向け製品の販売数量の減少による影響を受けました。ただしこの減少は、実勢価格の上昇と食用動物向け製品の販売数量の増加で一部吸収されました。2014 年のノバルティス社の動物用医薬品事業の売上を含め、外国為替変動の悪影響を除くと、世界全体での動物用医薬品の売上は前年比 1%減となります。

2016 年業績予測

報告値ベースでの 2016 年通年の 1 株当たり利益の予想範囲は現在、2.83 ドルから 2.93 ドルです。非 GAAP 値では、2016 年通年の 1 株当たり利益の予測は引き続き 3.45ドルから 3.55ドルと予想しています。2016 年の非 GAAP 値には、無形資産の償却費、ならびにノバルティス社の動物用医薬品事業の買収に伴う統合費用は含まれていません。

	2016 通年予想
1 株当たり利益(報告値)	\$2.83~\$2.93
無形資産の償却	.41
資産価値減損、組織再編およびその他の特別費用(ノバルティス社の動物用医薬品事業の統合費用を含む)	.21
1 株当たり利益(非 GAAP 値)	\$3.45~\$3.55
アービタックスの商業化権移管に伴う償却は、買収会計の最終調整の対象となります。	
四捨五入のため合計値は一致しません。	

当社では、2016年の売上を、引き続き202億ドルから207億ドルの範囲と予想しています。外国為替変動の悪影響を除くと、ヒューマログ、トラゼンタ、シアリス、フォルテオ、ストラテラ、アービタックスなどの多くの既存製品、ならびに動物用医薬品の増収、さらにサイラムザ、トルリシティ、ジャディアンス、Portrazza、Basaglarなどの新製品の順調な売上拡大を期待しています。

マーケティング、販売および一般管理費は、前回と同じく60億ドルから62億ドルの範囲を見込んでいます。研究開発費用は、これまで通り48億ドルから50億ドルの範囲と予想しています。

2016年度の税率は、無形資産の償却費用、ノバルティス社の動物用医薬品事業の買収に伴う統合費用、および事業再編費用に関する税金の影響により、報告値では約21.0%を見込んでいます。非GAAP値での税率の見込みは、引き続き約22.5%と予想しています。

下表は、当社の2016年業績予想を要約したものです。

	2016年業績予想	
	前回	修正後
総売上	202~207億ドル	202~207億ドル
売上に対するグロスマージンの比率(報告値)	約74%	約74%
売上に対するグロスマージンの比率(非GAAP値)	約77%	約77%
マーケティング、販売、一般管理費(報告値)	60~62億ドル	60~62億ドル
マーケティング、販売、一般管理費(非GAAP値)	60~62億ドル	60~62億ドル
研究開発費	48~50億ドル	48~50億ドル
その他の収入(費用)	0~7,500万ドル	0~7,500万ドル
税率(報告値)	約20.5%	約21.0%
税率(非GAAP値)	約22.5%	約22.5%
1株当たり利益(報告値)	2.92~3.02ドル	2.83~2.93ドル
1株当たり利益(非GAAP値)	3.45~3.55ドル	3.45~3.55ドル
設備投資	約11億ドル	約11億ドル

イーライリリー社は、世界中の人々のより豊かな人生のために、革新的な製品に思いやりを込めてお届けすることを目指すグローバルなヘルスケアのリーダーです。当社は、真のニーズを満たすべく質の高い医薬品の創造に献身した 1 人の男性により 100 年以上前に創立され、現在でも当社のすべての事業においてそのミッションに忠実であり続けています。世界中で、イーライリリー社の従業員は人々の人生にインパクトを与えるような医薬品を発見し、それを必要とする人々に提供し、疾患についての理解や管理を向上させ、慈善活動やボランティア活動を通じて地域社会へ還元しています。イーライリリー社の詳細については www.lilly.com および <http://newsroom.lilly.com/social-channels> をご覧ください。

このプレスリリースには、将来に関するイーライリリー社経営陣の現時点での意図と予想が含まれ、それらはいずれも米国の 1933 年連邦証券法第 27A 条と、1934 年証券取引所法第 21E 条に規定する将来予想に関する記述に相当します。「推定」、「予想」、「意図」、「期待」、「確信」、「目標」、「予測」および同様の表現は、このような将来予想に関する表明を示すために使用されています。実際の結果はさまざまな要因により大きく異なることがあります。医薬品の研究開発は大きなリスクと不確実性を伴います。開発中の製品が規制当局から必要な臨床および製造上の承認を得る保証はなく、市販後に商業的に成功する保証もありません。当社の業績にはまた、新製品に関して予測される規制当局の承認と発売のタイミング、最近上市した製品の市場への浸透、既存の製品に影響する競合製品の開発、特定の当社製品の知的財産権の満了、特許やその他の知的財産権を保護し行使する当社の能力、米国の医療制度改革を含む医薬品の価格・輸入・償還に関する行政当局の対応の影響、薬事規制のコンプライアンスに関する問題または行政当局による査察、既存品に関わる規制当局の対応、当社製品の安全性や有効性に関する想定外の懸念、生産困難や中断により生じる製品供給に関する問題、規制の変更やその他の進展、特許法の改正またはデータパッケージの独占性に関する規制の変更、既存および将来の製品に関する訴訟、製造物責任訴訟および類似の案件に関して第三者補償義務がどの程度履行されるか、当社の情報システムやネットワークに保存されている企業秘密や他の機密情報の不正な開示、税法や規制の変更、インフレ率・金利・外国為替レートの変動、資産価値減損と組織再編費用、財務会計基準審議会と米国証券取引委員会 (SEC) が制定する会計基準の変更、買収と事業開発取引および関連する統合費用、および為替相場とマクロ経済状況のインパクトをはじめとする要因が影響を及ぼす場合があります。会社の業績を将来予想に関する記述と大きく異なるものとするおそれのある要因に関する追加の情報は、SEC に提出された当社の最新の届出書 10-Q 様式および 10-K 様式をご参照ください。将来予想に関する記述は本プレスリリースの発行日においてのみ有効であり、それらに対して過度の信頼を置かないようお願いいたします。法律によって規定されている場合を除き、イーライリリー社はいずれの将来予想に関する記述についても、本プレスリリース発行日以降の出来事を反映して更新する義務を負いません。

#

イーライリリー・アンド・カンパニー
業績報告(未監査)–報告値
単位百万ドル(1株あたりの数値を除く)

	12月31日に終了した 3ヵ月			12月31日に終了した 12ヵ月		
	2015	2014	%増減	2015	2014	%増減
総売上	\$ 5,375.6	\$ 5,121.3	5%	\$ 19,958.7	\$ 19,615.6	2%
売上原価	1,389.2	1,253.1	11%	5,037.2	4,932.5	2%
研究開発費	1,444.2	1,185.7	22%	4,796.4	4,733.6	1%
マーケティング、販売、 一般管理費	1,798.4	1,799.9	(0)%	6,533.0	6,620.8	(1)%
取得済仕掛研究開発費	199.0	105.2	89%	535.0	200.2	NM
資産価値減損、組織再編および その他の特別費用	144.9	401.0	(64)%	367.7	468.7	(22)%
事業利益	399.9	376.4	6%	2,689.4	2,659.8	1%
純金利収入(支出)	(20.4)	(13.2)		(74.2)	(27.8)	
その他の純収入(費用)	65.1	150.4		174.8	368.3	
その他の収入(費用)	44.7	137.2	(67)%	100.6	340.5	(70)%
税引前利益	444.6	513.6	(13)%	2,790.0	3,000.3	(7)%
所得税	(33.8)	85.1	NM	381.6	609.8	(37)%
純利益	\$ 478.4	\$ 428.5	12%	\$ 2,408.4	\$ 2,390.5	1%
1株当たり利益-希釈化後	\$ 0.45	\$ 0.40	13%	\$ 2.26	\$ 2.23	1%
1株当たり支払配当金	\$ 0.50	\$ 0.49	2%	\$ 2.00	\$ 1.96	2%
発行済株式数の加重平均-希釈 化後(千株)	1,064,893	1,069,787		1,065,720	1,074,286	

NM: 比較不能

イーライリリー・アンド・カンパニー

GAAP 報告値と一部の非 GAAP 調整後値(未監査)の対比

単位百万ドル(1株あたりの数値を除く)

	2015年12月31日に終了した3ヵ月			2014年12月31日に終了した3ヵ月		
	GAAP 報告値	調整額 ^(c)	非 GAAP 調整後 ^(a)	GAAP 報告値	調整額 ^(d)	非 GAAP 調整後 ^(a)
総売上	\$ 5,375.6	\$ —	\$ 5,375.6	\$ 5,121.3	\$ 278.3	\$ 5,399.6
売上原価	1,389.2	(166.9)	1,222.3	1,253.1	28.8	1,281.8
事業費用 ^(b)	3,242.6	(2.1)	3,240.5	2,985.6	91.4	3,077.0
取得済 仕掛研究開発費	199.0	(199.0)	—	105.2	(105.2)	—
資産価値減損、組織再 編およびその他の特 別費用	144.9	(144.9)	—	401.0	(401.0)	—
その他の収入(費用)	44.7	—	44.7	137.2	(125.3)	11.9
所得税	(33.8)	163.1	129.3	85.1	87.1	172.2
純利益	\$ 478.4	349.8	\$ 828.2	\$ 428.5	452.1	\$ 880.5
1株当たり利益 —希釈化後	\$ 0.45	0.33	\$ 0.78	\$ 0.40	0.41	\$ 0.82

四捨五入のため合計値は一致しない。

- (a) イーライリリー社は米国一般会計原則(GAAP)に基づき報告される財務諸表とは異なる非 GAAP 値を使用しています。当社の非 GAAP 値は、一般に非常に変動が激しく、予想が難しく、また一定期間業績報告に大きな影響を及ぼす規模の項目を除外して報告値を調整しています。2014年の非 GAAP 値調整金額は、ノバルティス社の動物用医薬品事業の買収が2014年1月1日に完了したと想定しています。2015年から、表示された期間の非 GAAP 値からは第三者から取得した市販品または導入品の費用に伴う無形固定資産の償却も除外されています。当社はこのような非 GAAP 値が、当社の継続中の業務に対する評価に役立つことを含め、投資家に有益な情報をもたらすと考えています。これらは期ごとの比較や、調整の対象となる項目によって覆い隠される、あるいは正確に伝えられないような傾向の把握に役立ちます。経営陣はこれらの非 GAAP 値を、経営資源の配分やインセンティブ報酬目標に対する実績評価を含め、社内での業務実績の評価に使用しています。これらの非 GAAP 値は GAAP に基づく財務報告に代わる、あるいはそれよりも優れたものではなく、後者に加えて使用するべきものであることにご留意ください。

(b) 事業費用には研究開発、マーケティング、販売および一般管理費が含まれます。

(c) 2015年12月31日に終了した3ヵ月間の特定のGAAP報告値の調整には以下が含まれています。

単位百万ドル(1株あたりの数値を除く)	償却 ⁽ⁱ⁾	IPR&D ⁽ⁱⁱ⁾	その他特定の項目 ⁽ⁱⁱⁱ⁾	調整合計
売上	\$ —	\$ —	\$ —	\$ —
売上原価	(166.9)	—	—	(166.9)
事業費	(2.1)	—	—	(2.1)
取得済仕掛研究開発費	—	(199.0)	—	(199.0)
資産価値減損、組織再編、およびその他の特別費用	—	—	(144.9)	(144.9)
その他の収入(費用)	—	—	—	—
所得税	55.4	69.7	38.1	163.1
純利益	\$ 113.6	\$ 129.4	\$ 106.8	\$ 349.8
1株当たり利益-希釈化後	\$ 0.11	\$ 0.12	\$ 0.10	\$ 0.33

四捨五入のため合計値は一致しない。

- i. 主として第三者から取得した市販品または導入品の費用に伴う無形固定資産の償却を除外。
- ii. 事業統合以外の取引で取得した取得済仕掛研究開発費に関する前払金に伴う費用を除外。当該費用は主に、経鼻グルカゴン製剤の全世界での権利取得に伴う、Locemia Solutions社への支払い1億4,900万ドルに関係するもの。
- iii. 当社のコスト構造削減のための再編に伴う費用、資産価値減損費用、ノバルティス社の動物用医薬品事業の買収に伴う統合費用を除外。

(d) 2014年12月31日に終了した3カ月間の特定のGAAP報告値の調整には以下が含まれています。

単位百万ドル(1株あたりの数値を除く)	IPR&D (i)	ノバルティス社の動物用医薬品事業 (ii)	引き継いだ償却 (iii)	ベーリンガーインゲルハイム社との契約の変更 (iv)	その他特定の項目 (iv)	調整合計
売上	\$ —	\$ 278.3	\$ —	\$ —	\$ —	278.3
売上原価	—	127.6	(98.8)	—	—	28.8
事業費	—	127.3	(35.9)	—	—	91.4
取得済仕掛研究開発費	(105.2)	—	—	—	—	(105.2)
資産価値減損、組織再編、およびその他の特別費用	—	—	—	—	(401.0)	(401.0)
その他の収入(費用)	—	(33.3)	—	(92.0)	—	(125.3)
所得税	36.8	(4.2)	46.2	(32.2)	40.5	87.1
純利益	\$ 68.4	\$ (5.8)	\$ 88.8	\$ (59.8)	\$ 360.5	452.1
1株当たり利益-希釈化後	\$ 0.06	\$ (0.01)	\$ 0.08	\$ (0.06)	\$ 0.34	0.41

四捨五入のため合計値は一致しない。

- i. 事業統合以外の取引で取得した取得済仕掛研究開発費に関する前払金に伴う費用を除外。これらの費用の内訳は、当社とベーリンガーインゲルハイム社との契約の変更に伴う費用 5,520 万ドル、およびアドシア社との提携に関する費用 5,000 万ドル。
- ii. ノバルティス社の動物用医薬品事業の買収とそのための資金調達、2014年1月1日に発生したと想定して同事業による業績を算入。金額は、以下を調整したノバルティス社の動物用医薬品事業のGAAP報告値を反映。
 1. 買収完了後に売却された、米国のセンチネル[®]犬用寄生虫駆除剤フランチャイズに関する業績を除外
 2. 無形固定資産の償却を除外
 3. 統合費用と棚卸資産のステップアップ費用を除外
 4. その他種々の調整
- iii. 主に第三者から取得した市販品または導入品の費用に伴う無形固定資産の引き継いだ償却を除外。
- iv. 当社とベーリンガーインゲルハイム社との契約の変更に伴う収入を除外。
- v. 当社のコスト構造削減のための再編に伴う費用を除外。

イーライリリー・アンド・カンパニー

GAAP 報告値と一部の非 GAAP 調整後値(未監査)の対比

単位百万ドル(1株あたりの数値を除く)

	2015年12月31日に終了した12ヵ月			2014年12月31日に終了した12ヵ月		
	GAAP 報告値	調整額 ^(c)	非 GAAP 調整後 ^(a)	GAAP 報告値	調整額 ^(d)	非 GAAP 調整後 ^(a)
売上	\$ 19,958.7	\$ —	\$ 19,958.7	\$ 19,615.6	\$ 1,081.1	\$ 20,696.7
売上原価	5,037.2	(669.7)	4,367.5	4,932.5	119.3	5,051.8
事業費用 ^(b)	11,329.4	(109.5)	11,219.9	11,354.4	310.9	11,665.2
取得済						
仕掛研究開発費	535.0	(535.0)	—	200.2	(200.2)	—
資産価値減損、組織再編およびその他の特別費用	367.7	(367.7)	—	468.7	(468.7)	—
その他の収入(費用)	100.6	152.7	253.3	340.5	(215.1)	125.3
所得税	381.6	586.7	968.3	609.8	237.5	847.4
純利益	\$ 2,408.4	1,247.9	\$ 3,656.3	\$ 2,390.5	867.2	\$ 3,257.6
1株当たり利益 -希釈化後	\$ 2.26	1.17	\$ 3.43	\$ 2.23	0.80	\$ 3.03

四捨五入のため合計値は一致しない。

- (a) イーライリリー社は米国一般会計原則(GAAP)に基づき報告される財務諸表とは異なる非 GAAP 値を使用しています。当社の非 GAAP 値は、一般に非常に変動が激しく、予想が難しく、また一定期間業績報告に大きな影響を及ぼす規模の項目を除外して報告値を調整しています。2014年の非 GAAP 値調整金額は、ノバルティス社の動物用医薬品事業の買収が2014年1月1日に完了したと想定しています。2015年から、表示された期間の非 GAAP 値からは第三者から取得した市販品または導入品の費用に伴う無形固定資産の償却も除外されています。当社はこのような非 GAAP 値が、当社の継続中の業務に対する評価に役立つことを含め、投資家に有益な情報をもたらすと考えています。これらは期ごとの比較や、調整の対象となる項目によって覆い隠される、あるいは正確に伝えられないような傾向の把握に役立ちます。経営陣はこれらの非 GAAP 値を、経営資源の配分やインセンティブ報酬目標に対する実績評価を含め、社内での業務実績の評価に使用しています。これらの非 GAAP 値は GAAP に基づく財務報告に代わる、あるいはそれよりも優れたものではなく、後者に加えて使用するべきものであることにご留意ください。

(b) 事業費用には研究開発、マーケティング、販売および一般管理費が含まれます。

(c) 2015年12月31日に終了した12ヵ月間の特定のGAAP報告値の調整には以下が含まれています。

単位百万ドル(1株あたりの 数値を除く)	償却 ⁽ⁱ⁾	IPR&D ⁽ⁱⁱ⁾	棚卸資産 のステップ アップ費用 ⁽ⁱⁱⁱ⁾	負債の買 戻し ^(iv)	その他特 定の項目 ^(v)	調整合計
売上	\$ —	\$ —	\$ —	\$ —	\$ —	\$ —
売上原価	(516.7)	—	(153.0)	—	—	(669.7)
事業費用	(109.5)	—	—	—	—	(109.5)
取得済 仕掛研究開発費	—	(535.0)	—	—	—	(535.0)
資産価値減損、組織再編お よびその他の特別費用	—	—	—	—	(367.7)	(367.7)
その他の収入(費用)	—	—	—	152.7	—	152.7
所得税	206.2	187.3	43.6	53.5	96.2	586.7
純利益	\$ 419.9	\$ 347.8	\$ 109.4	\$ 99.3	\$ 271.6	\$ 1,247.9
1株当たり利益	\$ 0.39	\$ 0.33	\$ 0.10	\$ 0.09	\$ 0.25	\$ 1.17

四捨五入のため合計値は一致しない。

- i. 主として第三者から取得した市販品または導入品の費用に伴う無形固定資産の償却を除外。
- ii. 事業統合以外の取引で取得した取得済仕掛研究開発費に関する前払金に伴う費用を除外。当該費用の内訳は、FDAによる tanezumab の第 III 相臨床試験再開を承認する決定に伴いファイザー社に支払われた2億ドル、経鼻グルカゴン製剤の世界全体での権利取得に伴う Locemia Solutions 社への支払い1億4,900万ドル、がん治療薬開発のための提携契約に伴うイノVENT社への支払い5,600万ドル、自己免疫疾患と他の疾病の治療薬である Hanmi Pharmaceutical 社の経口ブルトン型チロシンキナーゼ(BTK)阻害剤に関する独占ライセンス提携契約に関する Hanmi 社への支払い5,000万ドル、革新的ながんの免疫学的療法を発見するための研究提携に関する BioNTech AG 社への支払い3,000万ドル、およびその他の技術提携に関する支払い5,000万ドル。
- iii. ノバルティス社の動物用医薬品事業の買収に伴う棚卸資産のステップアップ費用を除外。
- iv. 負債16億5,000万ドルの買戻しに伴う純手数料を除外。
- v. 当社のコスト構造削減のための再編に伴う費用、資産価値減損費用、ノバルティス社の動物用医薬品事業の買収に伴う統合費用を除外。

(d) 2014年12月31日に終了した12ヵ月間の特定のGAAP報告値の調整には以下が含まれています。

単位百万ドル(1株 あたりの数値を除く)	ノバルティ ス社の 動物用医 薬品事業 IPR&D (i)	引き継いだ 償却 (iii)	ブランド 処方薬 手数料 (iv)	ベーリン ガーイン ゲルハイ ム社との 契約の変 更 (v)	その他 特定の 項目 (vi)	調整合計
売上	\$ —	\$ 1,081.1	\$ —	\$ —	\$ —	\$ 1,081.1
売上原価	—	504.4	(385.1)	—	—	119.3
事業費用	—	575.0	(145.1)	(119.0)	—	310.9
取得済 仕掛研究開発費	(200.2)	—	—	—	—	(200.2)
資産価値減損、組 織再編およびその 他の特別費用	—	—	—	—	(468.7)	(468.7)
その他の収入(費 用)	—	(123.1)	—	(92.0)	—	(215.1)
所得税	70.0	(42.9)	181.6	(32.2)	61.0	237.5
純利益	\$ 130.2	\$ (78.7)	\$ 348.8	\$ (59.8)	\$ 407.7	\$ 867.2
1株当たり利益 -希釈化後	\$ 0.12	\$ (0.07)	\$ 0.32	\$ (0.06)	\$ 0.38	\$ 0.80

四捨五入のため合計値は一致しない。

- i. 事業統合以外の取引で取得した取得済仕掛研究開発費に関する前払金に伴う費用を除外。当該費用の内訳は、当社とベーリンガーインゲルハイム社との契約の変更に伴う費用 5,520 万ドル、アドシア社との提携契約に関する費用 5,000 万ドル、アストラゼネカ社との AZD3293 の共同開発・商業化についての契約に関する 5,000 万ドル、イミュノコア社との提携契約に関する 4,500 万ドル。
- ii. ノバルティス社の動物用医薬品事業の買収とそのため資金調達、2014年1月1日に発生したと想定して同事業による業績を算入。金額は、以下を調整したノバルティス社の動物用医薬品事業のGAAP報告値を反映。
 1. 買収完了後に売却された、米国のセンチネル[®]犬用寄生虫駆除剤フランチャイズに関する業績を除外
 2. 無形固定資産の償却を除外
 3. 統合費用と棚卸資産のステップアップ費用を除外
 4. その他種々の調整
- iii. 主に第三者から取得した市販品または導入品の費用に伴う無形固定資産の引き継いだ償却を除外
- iv. 米国のブランド処方薬手数料の管理に関する IRS の最終規則により生じた費用を除外。2014年に課せられて支払われた手数料の計上に加え、当社は2015年に課せられて支払われた手数料についても計上。
- v. 当社とベーリンガーインゲルハイム社との契約の変更に伴う収入を除外。
- vi. 主に当社のコスト構造削減のための再編に伴う費用を除外。